

「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・用語解説
「フロン、代替フロン」……………P.1
- ・団体会員紹介
「西日本リサイクル運動市民の会」…P.2
- ・会員の声・こんなことできる……P.3
- ・「太陽光発電キット貸し出し事業」の紹介
・本の紹介・ボランティアの声……P.4

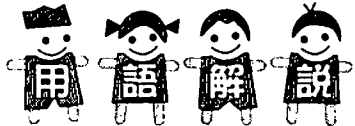


気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

第6号
2004.3.1

よく聞くけど

「ん？」何だったかなーっと思う



用語：フロン？ 代替フロン？

「フロンも代替フロンも強力な温室効果ガス」と言われていますが、これらのガスはどんなものなのでしょう。

20世紀の始めに開発されたフロンは、臭いもなく人が直接触れても害がなく、安定した化学物質ということで、エアコンや冷蔵庫の冷媒、断熱材、精密機器の洗浄など私たちの生活の様々な場面で大量に使われていました。ところが、CFC、HCFCといったフロンはオゾン層を破壊し、地球環境に悪影響を及ぼしていたことが明らかになりました。このため「モントリオール議定書」で生産が規制され、先進国ではCFCが生産禁止となったり、途上国では段階的に生産を廃止していくことになりました。

そのため、オゾン層を破壊しない代替フロン（HFC等）への転換が進められました。ところが、代替フ

ロンはCO₂の数十～数万倍の温室効果ガスだったので、京都議定書で、HFC、PFC、SF₆が削減対象のガスとなりました。

これらのガスは様々な場面で大気に放出されます。例えば、エアコンや冷蔵庫に使用されているフロンは製品を廃棄するときに放出、住宅などの断熱材に含まれているフロンは空気と入れ替わるとき長期間にわたって放出、ほこり取りスプレーや消火剤に使われているHFCは使用したと同時に放出されます。

日本ではノンフロン冷蔵庫が2002年から販売されています。消費者がフロンを使っていない製品を選択することが重要です。生産側も自然物質への早急な転換に取り組むべきです。また、すでに使用されているフロンを確実に回収する制度をつくることも必要です。



今回は、福岡県福岡市にある、「西日本リサイクル運動市民の会」の紹介です。代表幹事の小池寿文さんから紹介していただきました。



小池寿文さん

— 環境保全活動の事業化を目指して —

西日本リサイクル運動市民の会（以下市民の会）は、92年8月開催された、「牛乳パックの再利用を考える連絡会全国大会」（北九州市）の実行委員会の有志の、生協グリーンコープ連合など60団体・個人の出資に基づき、「循環型社会」の形成などを目的に、中部リサイクル運動市民の会をモデルとして93年11月発足しました（現在は有限責任中間法人化しています）。

市民の会は、1) フリーマーケットの開催、2) グリーンコンシューマー運動の展開、3) エコロジー商品の普及販売、4) クレジットカードの発行、などの取り組みを行うなど、グリーンコンシューマー運動を柱に「市民活動」の事業化を行うことを活動の大きな特徴としています。

97年には、気候フォーラムに参加し、地球温暖化防止に関する活動を主に北部九州で展開し、COP3終了後は、更に地球温暖化防止・省エネルギーの推進を目的として、再生可能エネルギー（主に太陽光発電）の普及やカーシェアリングの取り組みなど、ごみ・リサイクル、環境保全などからエネルギー・交通問題にまでその活動範囲が広がっています。



左：フリーマーケット開催風景。福岡ドームでも開催しています
右：ボランティアドクターが壊れたおもちゃを修理。おもちゃの病院

99年6月、九州内外の環境NGO8団体の協力で発足したREPWは、暮らしの在り方を見直すきっかけづくりとすることを大きな目的として、九州電力とのコラボレーションで太陽光発電システム設置に対する補助事業を実施しました（2001年度まで）。この事業により九州の太陽光発電システム設置の全国シェアが10%から20%近くまで上昇し、

REPWは自然エネルギーアイランド九州へ向けて大きな役割を果たしたと評価しています。

現在は、「ミニ太陽光発電システム」の無料貸出制度を設けたり、「自然エネルギー学校・九州」の開催、更に市民共同発電所の建設なども進めています。



自然エネルギー学校・九州

カーシェアリングは、80年代後半スイスの学生達が資金を出し合い1台の車を購入し、共同利用を始めたものが現在の仕組みの原形だと言われ、現在世界で15~20万人以上の市民が利用するまでに発展してきています。車を共同利用することにより、年間走行距離が平均50%削減、会員の30%が自家用車を売却するなど、地球温暖化防止に大きな役目を果たすことも実証されつつあります。また、交通渋滞の緩和や駐車スペースの削減などの効果も期待されています。

レンタカーとの違いでは、会員制であること、比較的短時間の利用が多いこと、無人による貸出・管理を行うことなどです。

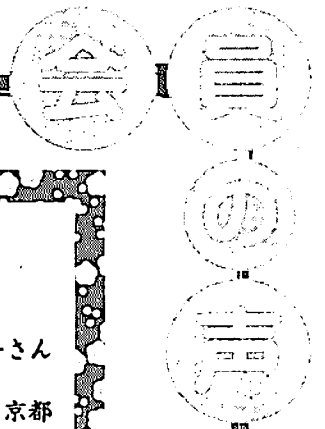
CSNの行う事業は、市民の会の提案により、行政、企業が連携し、ひとつの社会実験として実現したものです。現在、5ヶ所のステーションを設置し、車両24台、会員数180名までに伸びてきています。また電気自動車はグリーン電力証書を活用し、風力発電で充電しています。



カーシェアリングステーション風景
左端がキーを収納している鍵末

注：REPW=特定非営利活動法人 再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本
CSN=特定非営利活動法人 カーシェアリングネットワーク

西日本リサイクル運動市民の会
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-1-17 博多天神ビル9F
TEL：092-752-7760（代表） FAX：092-752-7766
E-mail：info@kurukuru.net URL：http://www.kurukuru.net/



岡良宣さん (福岡県)

地球が一日でも長生きするために頑張っておられる気候ネットワークの皆さんはじめまして!

私は、旧炭鉱の町で楽しく自由業を営んでいる者です。気候ネットワーク通信がくるのを楽しみにしている一人ですが、環境という問題は非常に難しく、環境とは何ですかと質問されたら、頭で分かっている、言葉では答えることができないと思います。皆さんはどう答えますか。辞書を見ると、あるものをとりまわっている外界のようす、周囲の物や状態。これで答えになっていると思いますか?

環境にも典型公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等)非典型公害(電波障害、廃棄物、放射線汚染等)生活環境(人の生活に密接な関係があるもの)と相当広範囲にわたっている凡人には理解するのが大変です。

気候ネットワーク通信の内容についてローカルの人にも分かりやすく、身近な問題、親近感がある環境情報の内容にして頂けると、もっと環境問題に興味をもつ人が多くなるのではないかと思います。

自然エネルギー学校で抱いた夢がかないました

サークルおてんとさん 清水 順子さん

私は一昨年に自然エネルギー学校・京都に通い、「市民共同発電」の取り組みを知りました。「奈良にも作りたい」との思いを強く持ち、その年の秋に「サークルおてんとさん」を結成しました。2003年に奈良県内の他団体の方々と、太陽光市民共同発電所1号棟を「特別養護老人ホームあすなら苑」(大和郡山市)に設置することに取り組みました。規模20kW、1/2はNEDOの補助金から、あとの800万円は市民の寄付を募り、何とか目処が立ち、今年2月に完成しました。3月6日には「点灯式」をします。気候ネットワークや、きょうとグリーンファンドのみなさんが、大きなささえになりました。温暖化が進行する中で、私たち市民のエネルギーの意識転換のきっかけになることを願っています。

皆様のご意見・自由なご発言を募集しております。皆様の声を遠慮なくお寄せください。次号は、5月発行ですので、4月20日までにご連絡ください。



温暖化防止
こんなことできる!

このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」のできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは「自転車発電」

エネルギーの大切さを突感できる「自転車発電装置」。子ども向けの環境教育などで使用してみたいかでしょうか。
(関連記事：気候ネットワーク通信35号7頁)

子どもたちにエネルギーの大切さを伝えたい。でもどのようにして、と悩まれていますか。気候ネットワークでは、ひのでやエコライフ研究所製作の持ち運びができる「自転車発電装置」を活用しています。小学校等で環境教育を行うときに、温暖化問題の仕組みや省エネの説明に加えて、実際に自転車をこいで電気をつくり小型テレビやラジカセを動かしてみます。自転車発電に挑戦して、テレビが映ったり

CDの音が聞けることは大きな驚きです。また普段何気なくスイッチを入れて電気を消費していますが、あらためて電気をつくるには大きなエネルギーが投入されていることが実感でき、省エネに取り組むべきことの重要性を認識できます。この自転車発電装置を使えば、楽しみながらエネルギーについて学ぶことができます。皆さん自身で発電に挑戦されたり、環境教育で活用されることをお薦めします。ちなみに、この発電機は、約70wの発電能力があります。

「市民体験型太陽光発電キット貸し出し事業」のご紹介

太陽光パネルはまだコストも高く、また自然エネルギー普及の意義を学ぶ機会も少ないため、高い関心のわりには普及がなかなか進んでいないのが現状です。そこで、自然エネルギー学校・京都は、京エコロジーセンターと連携し、自然エネルギーに興味はあるけれどもまだよく知らない、一度体験してみたいといった市民を対象に、市民体験型太陽光発電キット貸し出し事業を昨年10月から行っています。

この事業は、参加者に太陽光発電の意義や利用方法を学んでいただき、独立型の太陽光発電利用に必要な機材をセットで貸し出すことで、参加者が自然エネルギー普及について考え、地域に広げていくこと目指しています。

今年度は、貸し出し期間が秋から冬ということもあり、思った以上に発電ができないという報告もありました。しかし、参加者にとっては、どのようにすればより多く発電できるか、少ない発電電力をいかに有効に使うかなどを考える、よい機会にもなっているのではないのでしょうか。

自然エネルギー学校・京都 中野大



事前講習会の様子



報告会の様子

おすすめの本の紹介です。

本の紹介

紹介者：萩由美子氏（環境省登録・市民部門・環境カウンセラー）

大人と子どものための、学びの環境絵本「オゾンそうってなんだろう？」

絵：明日香、文：萩由美子、英文：マーク・ワイダマン、発行：NPO法人ストップ・フロン全国連絡会

販売：サンライズ出版 2003年5月11日 第1刷発行

「地球の大事な宇宙服！」オゾン層保護が、紫外線対策が、オゾン層破壊のみならず地球温暖化を促進してしまうフロンガスの問題が、優しく、可愛く、正しく、はっきりと良くなります。社団法人・学校図書館協議会 第1250回の選定図書になりました。日英2カ国語で作成の、世界の親子に伝えたい渾身の1冊です。

<本体1,500円+税 50ページ>



ボランティアの声



気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。
そのボランティアからのコメント！

京都ボランティア 中島 千歌さん

4月から同志社大学商学部の3回生になります。去年の夏休みにインターンシップでお世話になって以来ボランティアとして日々勉強させてもらっています。現在は、大学新入生が新生活を始めるための家電製品を購入する際に省エネ製品を選んでもらえるように呼びかけるキャンペーンに関わっています。まだまだ分からない事だらけですが、これからも色々な事に取り組み進んでいきたいです。

編集後記

また、何人かの気候ネットワークボランティア（大学生）が旅立っていく季節になりました。嬉しくもあり、さみしくもある今日この頃です。でも、4月になればまた新しい出会いがあることでしょう。

私は4月がとても待ち遠しいです。桜の花もうきうき春を待っているのでしょうか。一生に何度かしか見ることのできない満開の桜を、仕事に追われて見損なわないようにしたいと思います。温暖化の影響による開花時期のずれも心配です。

(おかゆ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田碧海 / 事務局長：田浦健朗

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」6号
2004年3月1日発行（隔月1日発行）
編集・DTP：岡優子・平岡俊一

京都事務所（本部）
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463
E-mail：kikotko@jca.apc.org

本誌100%の再生紙に大豆インクを使用し、風の発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）